

# フォトグラファーが認めた 高画質溶剤プリンター「GS6000」

プリンターメーカーのエプソン販売(株)は、展示会「サイン & ディスプレイショウ」や「IGAS」で、高画質溶剤プリンター「GS6000」の出力サンプルとしてグロスターポリンへの高精細プリントを施したバナーを出品して来場者の注目を集めた。このサンプルを提供したのは熊本市のジャッドスタジオで、同社が実際に仕事として受注・納品したものである。ジャッドスタジオでは「GS6000」をどのような仕事に活用しているのか？ また「GS6000」はユーザーにとってどのようなプリンターなのか？ 代表取締役の徳永琢馬氏に話を伺った。

## 九州で一番最初に「GS6000」を導入

——御社の業務概要をお聞かせください。

当社はサインやポスター制作のための写真撮影からデザイン、出力までを一貫して手がけることができます。普通でしたら撮影・デザイン・印刷と3社が関わることになり、コストもそれぞれ上乗せされて、発注者に跳ね返っていきます。また、時間もかかります。当社はこれを一貫して行えるので、安く早くです。私自身はフォトグラファーで、デザイナー兼プリンターオペレーターが2名おります。こういった業態は他になく、当社の強みになっています。

仕事としては、撮影から出力まですべてを手がけるものばかりではなく、広告代理店さんや印刷屋さんからの下請けの出力、

フォトグラファー仲間から頼まれる出力などもやっています。

——どういった設備をお持ちですか？

プリンターはすべてエプソン販売さんで、溶剤が「GS6000」、水性は「PX-H10000」「PX-20000」「PX-F10000」「PX-6550」「PX-B510」などです。あとはラミネーターが1台。カッティングは置いていません。

——「GS6000」を導入したのはいつ頃ですか？

2011年の1月です。九州では一番最初の導入でした。それまでに使用していた他社さんの溶剤プリンターは型が古いこともあって、色が全然合わなくなってしまったのです。同じデータを同じ条件で出力しても色が全

然違ってしまふほどで困っていました。

——溶剤プリンターは他にもいろいろありますが、「GS6000」導入の決め手は何だったのですか？

私はエプソン販売さんの水性顔料プリンターを長年使っており、クオリティの高さを実感しています。メンテナンス担当の方に「エプソン販売さんが溶剤プリンターも出してくれたら間違いなさそうなんだけどなあ」と冗談で言っていたら本当に出るようになります。すぐに予約しました。

いわゆる看板屋さんややっている出力は、綺麗とは言いがたいものが多いように感じられます。綺麗な出力ができないわけではないと思いますし、設置場所が高い位置で、すぐ近くで人の目に触れないならそれで良いのかもしれません。ですが、こういったことは私の感覚では受け入れられません。そのため一般的な看板屋さんとは差別化できるプリンターを使って、従来とは違う出力をやってみたかったのです。

## 色については一度もクレームがない

——「GS6000」はオレンジ・グリーンを含む8色のエコソルベントGSインクを搭載しています。実際に使ってみて、発色の良さ、色の再現性の高さを感じますか？

それはもう、とにかく綺麗ですね。今までにお客さんから色についてクレームを受けたことはありません。パソコンのモニターで表示されたものが、忠実に再現されて出力されるので信頼性があります。

——色合わせなどはやり易いですか？

パソコンのモニターで見るデータと、お客様が添付してきた色見本が違うことがよくあります。当社のオペレーターは、たとえばデータ上でシアン80%であっても、色見本がもっと強く出ていると感じれば、シアンを強く表現したいのだなと解釈して強く出るように調整します。こういった調整は色を見る力がなければできませんが、モニターと出力が一致するのでやり易いと言っています。



2011年9月に開催された「サイン&ディスプレイショウ」のエプソン販売ブースに展示されたグロスターポリンへの高画質プリントサンプルは、ジャッドスタジオが実際に仕事として受注・納品したものです。

——他に使い勝手はどうですか？

色についてはまったく問題ないのですが、多少の不自由さを感じる部分もあります。例えばメディアのセットの仕方です。けっこう低めの位置にメディアを差し込まなければならず、女性のオペレーターが二人がかりでやっています。1600mm幅で新品のロールだと、重くて女性一人で低い位置にセットするのは難しいです。

また、メディアの巻き取りについてですが、メディアによっては普通に巻き取りを行うとインクの乾燥が間に合わず、乾く前に巻き取って出力物をダメにしてしまうことがあります。当社ではプリンターに備え付けの巻き取りを使わず、前に引き出して乾かしています。このあたりも、何か改善策を考えてもらえたら嬉しいのです。

——メディアのプロファイルはどうしていますか？

当社が取引しているメディアベンダー2社から提供されるプロファイルを使い、「このメディアではこのプロファイル、こっちのメディアはこっちのプロファイル」というように、最適なものを自分たちで見つけて対応表のようなものを作りました。

できればエプソン販売さんに純正メディアを出してもらって、プロファイルも設定してもらいたいですね。一般的にプリンターメーカーさんの純正メディアは値段が高めであまり使用されないようですが、私はエプソン販売さんの純正メディアなら少々高くても使ってみたくです。

アジア製の安いメディアなどいろいろ使いましたが、品質にバラつきがあり、同じ製品でもロットによってインクの乗りが違ったりするのです。今ではそういった安いだけのメディアを使うのはやめました。

——多少の要望や改善してほしい点はあるけど、トータルでは満足されていますか？

もちろんです。まだまだ試行錯誤しながらやっていますが、クオリティを求めるお客様からはリピートの受注につながっています。

## 質の高い出力物を提供して リピート客を大切に

——「GS6000」を使って、具体的にはどのような仕事を手がけていますか？

「GS6000」を使ったターボリン、塩ビ、バックライトへの出力は、写真入りのものが多いです。飲食店等の入り口近くに置くサインや電飾などで、来店者のすぐ近くで目に触れます。そのため、高品質の出力を要求されます。「GS6000」はバックライト用フィルムへの出力も非常に綺麗です。おかげさまでバックライトの受注は増えています。飲食店のお客様からは、撮影から出力まで一貫してお仕事をいただくことも多いです。

エプソン販売さんの展示会ブースにサンプルを提供した小売店のバナーは、グロスターポリンに1440×720dpiの解像度で出力しました。中間色が良く出ていて、シズル感を表現できたと思います。

あとは印刷屋さんから受ける小ロットのポスターの印刷や、広告代理店さんから受ける販促物製作などありますが、こういった案件は主に水性プリンターでやっています。

——出力業は値引き合戦で大変だと言われています。御社を取り巻く状況はどうですか？

当社も厳しいです。見積りを出しても受注できるのは半分くらいです。以前は薄利多売でやっていたこともありますが、それ



「中間色が良く出ていて、シズル感も表現できた」(徳永社長)というバナー。ターボリンへの出力は、文字やシンプルな絵柄だけというケースが多いが、ジャッドスタジオでは写真入りのデータを1440×720dpiの高画質モードで出力した。

をやると従業員に負担がかかります。今は無理に安く仕事を受けようとは思っていません。質のいい仕事をして、リピートのお客様を大切にしていきたいです。

当社は撮影から出力まで一貫して手がけることができるので、その点を評価してリピーターになってくださるお客様もいます。そういった方々を大切に、身の丈に合った商売をできればいいと思っています。それを可能にする「GS6000」は、なくてはならないプリンターです。



ジャッドスタジオの徳永琢馬代表取締役は、自らフォトグラファーとして撮影をこなす。写真のプリンターはエプソン販売の「GS6000」。



ジャッドスタジオ 熊本県熊本市出水 6-25-1  
Tel.096-370-1577

【プリンターについての問い合わせ】  
エプソン販売(株)  
プリンター購入ガイドインフォメーション  
Tel.050-3155-8100  
<http://maxart.jp>